

「ここらは水がきれいだから」

私たちが、引っ越してくるときに聞いた言葉です。

私が住む島根県出雲市斐川町は農業と工業が盛んな町です。

斐川町には水源地もあります。水源地とは川などから水を取り入れ周りの地域に水を供給する施設です。斐川町は地下水からくみ上げており、その水はそのままでも飲むことが出来るほどきれいなのです。

毎年夏には水源地祭りがあり、私はそれを楽しみにしています。

昨夏の祭りで楽しんでいた時、ふと

(水源地とは何をするとところだろう。)

と思いました。

それがきっかけで斐川町や世界の水事情について調べ、驚くべきことをたくさん知りました。

私たち日本人はあまり水に不自由している気がしませんが、私たちの食べている食品や使っている工業製品には多くの水が使われています。世界の水使用量は農業用・工業用が全体の九割近くを占めていてとくに農業用が約七割を占めています。日本は多くの食品や工業製品を輸入しています。これらを生産するためにはたくさんの水が必要で、日本は間接的に大量の水資源を輸入しているのです。

斐川町は、田んぼや畑が広がり、専業で農業をしている人も数多くいます。農業用水を管理する市の産業建設課の人に話を聞いたところ、

「稲は特に水の管理が必要な作物です。」

と言われました。ごはん一杯の米を作るのに280ℓの水が必要だということも知り、とても驚きました。

工業用水について斐川町の精密機器メーカーの説明を受けた時も、驚きました。

例えばスマートフォン。

このスマートフォンの中に入っているセラミックコンデンサを作る時の洗浄には純水が使われています。

その他にも冷却水として機械を冷やすために水が使われています。この工場では水をリユースするなどして大切に使っているそうですが、その量は一日当たり25メートルプール7杯分にもなるということです。

そして、私たちの一番身近な生活用水は蛇口をひねれば出てくるのが当たり前だと思っていますが、この水も二十四時間体制で管理している人達がいるおかげで不自由なく使えるということが分かりました。

平成28年1月におきた大寒波の際には各家庭で水道管の凍結及び破損が多数発生し、このことにより水源地から水を送る量より、タンクから配水される水の量が多くなりタンクが空になりそうになってしまい大変だったという話を伺い、私たちはなんて多くの人達に守られているのだろうと改めて思いました。

これまで私は水というと飲んだりお風呂や洗濯などに使う見える水しか考えていませんでした。

ですが実際は私の生活にかかわるほとんどのものが水を利用しています。

私たちは、水に守られて生きて、またその水を守る人達がいるので快適に暮らすことができています。

今回水について調べたことにより、私は水に感謝し大切に使うていかなければならないと痛感しました。

良い水に恵まれた斐川町に住んでいることは、とても幸せなことだと思いました。